

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 小田達夫

所属: 東京学芸大学附属特別支援学校

記録日: 2018年2月9日

キーワード: 読み書き支援、興味・関心、自信

【対象生徒の情報】

・学年

中学部3年生の女子生徒

・障害名

知的障害

・障害と困難の内容

- 教員の話や音声での指示を聞くとすぐに理解できるが、板書やプリント等の文字での指示になると理解が難しくなる。また、学習の中で間違いやミスを指摘されるとすぐに諦めてしまったり、面倒になってしまったりする。
- お礼の手紙や自分の思ったことについて文章で表現したい気持ちは高く積極的に書くが、誤字脱字が目立ち、文字を書いたり、文章を作ったりすることに対しての苦手意識が強い。
- 登下校の学校到着時と出発時、親に電話連絡をしているが、繋がらない際のメールでのやりとりが難しい。さらに文字に対しての苦手意識が強いためかメールでのやりとりに関しては拒否感がある。

【活動目的】

・当初のねらい

- ◇本人にとって使いやすい文字入力の方法を見つける。
- ◇文字を読むことや文章を作ることに対する自信をつける。

・実施期間

5月中旬より継続して行った。

・実施者

小田達夫

・実施者と対象児の関係

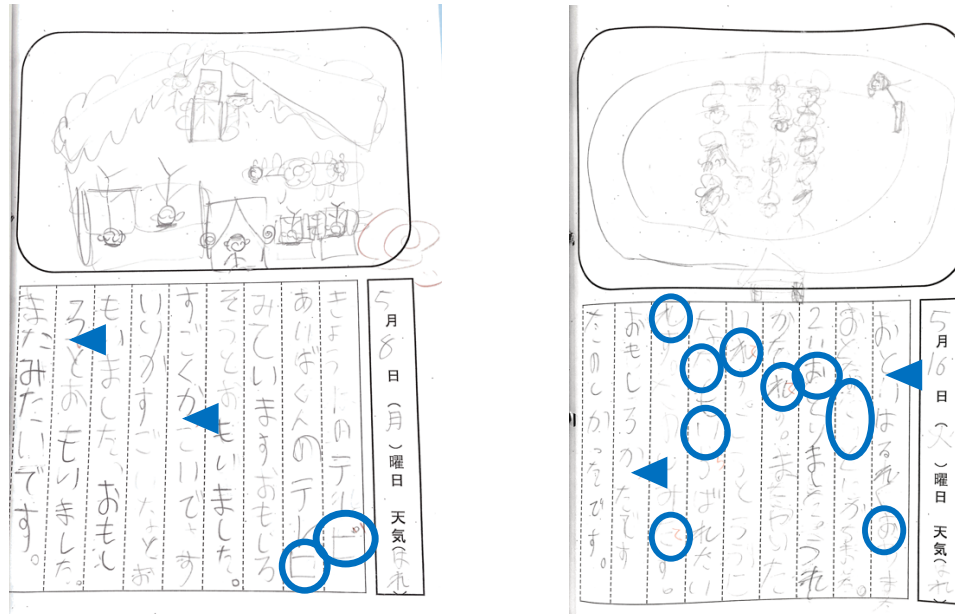
学級担任

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

《日常の宿題より》

週末の宿題として絵日記に取り組んでいる。絵日記で自分の伝えたいことはしっかりと持っているので一生懸命、書いてくる。ただし誤字脱字が多くあり、時折、絵から想像して文章を読み取る必要がある。(○が誤字、◀が脱字)



《文字の読み取り》

ひらがな一文字ずつであれば、確実に読むことができるが、単語や文章になってしまうと違った読み取りをしてしまう。また、始めの方の文字だけで推測して読み取ることが多々ある。

《iPad の利用を進めると・・・》

保護者との面談で iPad の活用は、好意的であり、日常的な漢字の読みや後々のメールの利用もできればとの話しげなされた。しかし、本人に話してみると学校の iPad はいらないとの返答があった。勉強嫌いの本人にとっては勉強をやらされると感じたのか。友達と一緒にならやっても良いかもと否定的であった。タブレット端末を使うのが自分だけだと、特別にされているのが嫌みたいで、自分ができないからだという気持ちがあったようだった。小学校の時からもこれまでずっとそんな気持ちを抱えていたのかなと対応を考えさせられる出来事であった。

ただし、「Drop Talk HD」の読み上げ機能を操作中、その機械的な音声に反応し、興味を持ち出したので、自分でも iPad を喋らせたいか聞いてみると積極的な面を見せた。そのため入力方法を 50 音キーボードに設定し、操作方法を伝えると、嬉しそうに iPad を使っていた。



・活動の具体的内容

《50 音キーボードでの入力》

読み上げ機能のある「おしゃべり代行」というアプリを用いて、主に休み時間に遊び感覚で使い始めた。学校の iPad に対して始めにあった拒否感もほとんどなくなり、楽しいという気持ちが現れて、自ら「タブレット、貸してください。」と借りに来るようになった。



- ・エピソード1)隣教室にあるペッパーに対して「ペッパーくん」と打ち込み、読み上げで反応するのか試していた。
「ぺっぱー」の打ち方を確認しにきた際には「へっぱー」になっていた。しかし、必死に黙々と打ち込んでいる姿があった。



- ・エピソード2)日直で帰りのホームルームの司会だった時にタブレットで司会を行うと言い始める。試行錯誤しながらも頑張って打ち込み、読み上げで進めていた。ホームルームの時間はかかったが、なんとかやりきった。

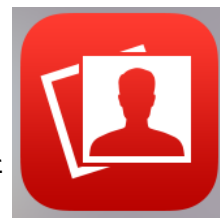


- ・エピソード3)玉こんにゃくの料理が好きだということでインターネットで調べようと50音キーボードで熱心に打っていた。時間をかけて玉こんにゃくを検索し、玉こんにゃくで一番好きな料理の画像を見せてきた。



《写真、動画撮影》

学校でiPadを使うことが少しずつ楽しくなり、気に入ってきて、自分のものとして使っても良いのか聞いてくる。そして、本校の余暇支援である趣味の時間の際に好きな写真や動画を撮ってきて、その様子を楽しげに話し、見せてくれた。また休み時間には「Photo Booth」で自撮りをしたりして遊んでいる様子もあった。

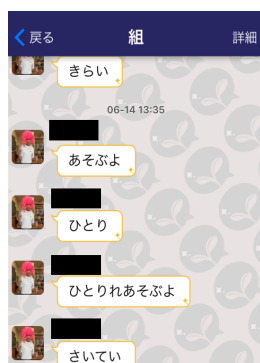


《By Talk for School の導入》

50音キーボードに設定して入力方法を教えるとすぐに覚えて、実施者とやりとりを始めた。送り方や入力方法等をすぐに伝えられるように学校でのみの実施にした。始めは写真を送ることから行ったが、写真を送ることが楽しくなったようで、抵抗のあるはずだったSNS機能に前向きであった。「Photo Booth」で撮影した自分の顔も送ったり、それにコメントをつけたりして一人で楽しんでいることもあった。また、自分なりに考えて簡単な言葉や文章を送るようになったが、所々で誤字が目立っていた。誤字があるときは実施者側から正しい文字を送るとその通りに返ってくることもあった。やっているうちに「きょうはたのしかった」などの文章も送信したが、一緒に教えながら送った。しかし、一週間くらいして飽きがきたのか、あまりiPadを手に取りやりとりをしようとしなくなった。こちらから質問を送るようにしたこともあり、文章の質問は読むのが面倒なようであった。



↓ 簡単な言葉



↓ 好きな写真とその説明



↓ 自分で撮った写真と感想



《タッチ&リードの試み》

国語の授業で文章の読みの補助として「タッチ&リード」の読み上げ機能を用いて文章理解に努めようと試みた。しかし、使い方が複雑であり、本人が扱うのは難しく、対象生徒にとってはそれほど万能ではなかったので利用を断念した。



《お礼文の作成》

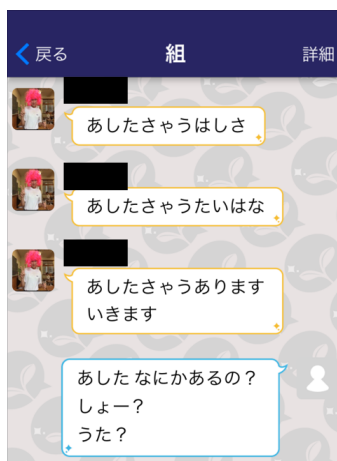
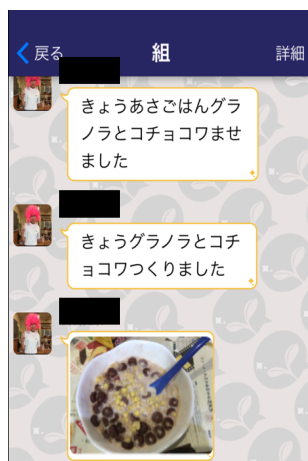
自然教室(宿泊学習)の際の活動場所でのお礼文の作成の時に 50 音キーボードで打ったものをアプリ「おしゃべり代行」で読み上げ、確認しながら作っていた。しかし、聞き取りにも問題があるのか、その確認も正しいものと言えず、誤字脱字も目立つ。最終的には、確認することが面倒臭くなってしまった。



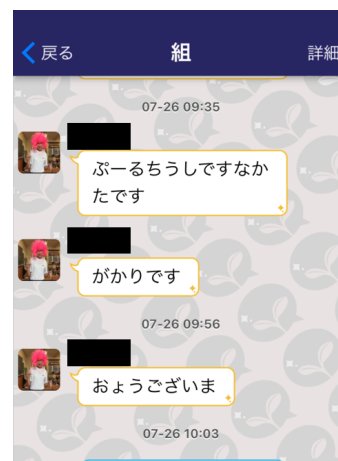
《夏休み中の取り組み》

iPad を家に持ち帰り、「By Talk for School」でやりとりを行なうことにした。料理に興味があり自分で作った朝食を写真に撮り、送ってきた。それに対して質問などを送っても始めはあまり返信が返って来ることはなかった。しかし、夏休み中に登校することがあり、「先生の質問に答えてよ。」という質問の内容は理解していることが多いことがわかった。しばらくすると、料理の他にその日の楽しかったことやこれから楽しみなことを送ってくれるようになった。ただし、内容が理解できないこともあり、解読に難しい文章もあった。

↓ 自分の作った料理の写真を送る。



↓ 誤字脱字はある。



↑ 理解不能な言葉。母親によると「明日はラジオ体操あります。行きます。」

夏休みの途中から音声を送信する方法を教え、音声と文字を一緒に送るよう進めた。文字で理解できないことは音声で伝わるようになった。始め多く見られていた誤字脱字も少しずつ減ってきた様子であった。また、夏休み後半になると実施者側からの質問について答えてくれることも増えてきた。

こんにちは。

おはようございます。げんきです！

病院行ってきます。

今日は、プールは行きません！

ボツチャやってます。

そうです。

音声も送れて確実に伝えたいことが伝わることで、自信となったのか... しっかりと文字が打てていることもあった。

質問に対して答えているが、実施者側からの質問を出すスピードが速すぎた...。そのため、遅れての返信になってしまっている。しかし時間をかけて正しく文字を打とうとしている気持ちは見て取れた。

・対象生徒の事後の変化

◎学校で使う iPad に対して抵抗があった対象生徒だったが iPad で色々な取り組みを行ったことで、iPad を活用することが楽しく、自分にとってプラスになるものだという気持ちが出てきた。そのために自ら必要とすることが増え、iPad を使うならやるという気持ちも芽生えた。

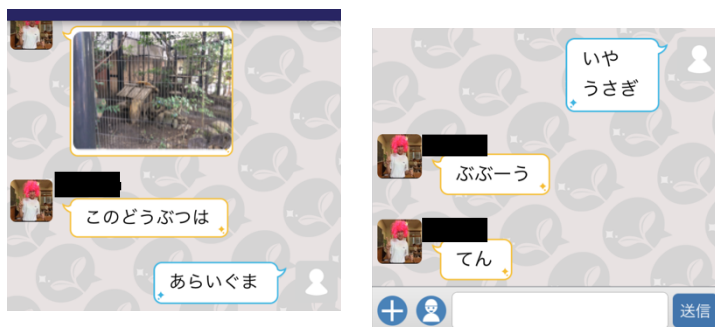
《文字入力の方法》

50音キーボードの入力を繰り返し行っていくことで、入力は上達した。音声での入力も試みたが、発音が不明瞭な部分があったりしてうまく入力できないことが多くあった。また、読みの苦しさからうまく入力できていないことに気づくことができないこともあった。そのために50音キーボードでの入力が基本となった。

《By Talk for School でのやりとり》

自分がやったことや楽しかったことを伝えたいという気持ちが増えて、By Talk for School でやりとりが楽しくなってきた。音声を送る方法を知ったことで、やりとりに対する自信もついて、積極的に文字でのやりとりも行うことができるようになった。最終的にこの取り組みが本人の中で一番楽しいと思えたのか続けることができた。現時点でもきに

なることがあれば、写真、音声、文字で送ってくるようになった。また、このやりとりを続け流ことができたことで50音キーボードでの入力の練習にもなった。



↑ クイズを出してきたりして、楽しんでいることもあった。

《スライドを作成しての発表》

総合学習の発表場面では、スライドでの発表をすすめるとやる気になり、「Key Note」を用いてスライドを完成させることができた。その際、やり方を教えると積極的に取り組み、文字入力も予測変換を用いて作っていた。そして、完成したスライドは本人にとって納得のいくものだったようで、繰り返し一人で練習していた。また、発表本番は自分で作ったスライドを自分で操作することで、このスライドの時はこれを言うというのがわかりやすく、スムーズに発表することができていた。iPad でスライドを作って発表するという方法を知り、発表に対する自信もついたようだった。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

◆iPad が楽しいと思えたことで文字の読み書きに関する活動でも積極的に取り組むことができたのではないかな。

・エビデンス

・iPad で楽しいことができることを知り、いろいろなアプリを試すことで50音キーボードでの入力が基本になった。

・「By Talk for School」でのやりとりを通して、自分のことを伝えることが楽しくなった。

(夏休み中には42日中、30日のやりとりがあった。)



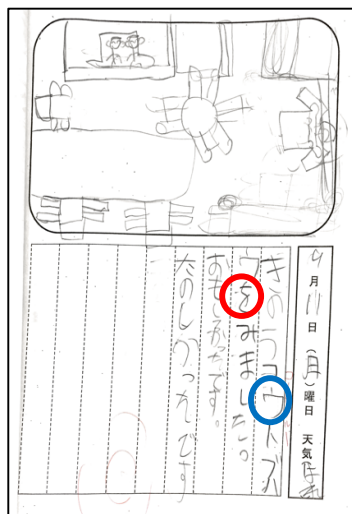
対象生徒本人にとって・・・

(1)文字を書くことへの自信

(2)iPad(タブレット端末)の操作への自信

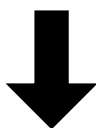
そこで、毎週末に出される宿題に日記では・・・

- ・ 5月→誤字脱字が目立ち、助詞「を」などがうまく使えていない。(生徒の事前の状況を参照)
- ・ 9月→日頃使わない言葉やカタカナは間違えるが、助詞が使えるようになった。(下図)

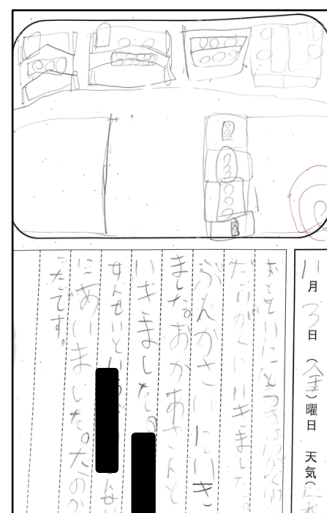


- ・ 11月→誤字脱字が減り、しっかりと文章が書けていることが増えた。

(右図)



(3)文章を書く力も少しずつついてきていることが伺えた。



(1)、(2)、(3)より

iPad を楽しみながら自分にとって最もやりやすい入力方法(50音キーボード)を見つけることができ、それを繰り返し扱うことで文字や文章に対する抵抗感が減っていった。そして、その活動における成功体験を繰り返すことで自信となり、積極的に取り組むことができるようになった。

・その他エピソード

iPad(タブレット端末)は楽しく扱えるものだ実感したことで、前向きに取り組むことができるようになった。来年度、対象生徒は高等部になるが、高校生になったらスマートフォンを持つと保護者と話しているそうである。今回の経験をもとに自分にとってプラスとなるような活用をしてくれることを期待している。また、今回の取り組みのように、これからも楽しみの中からいろいろなこと学び、自信をつけていってくれることを願っている。そして、iPadなどの機器が対象生徒にとって必要なことを補ってくれるものとなるよう、予測変換機能など使いやすい文字入力の方法をさらに見つけ、SNS等についてもやりとりのできる人の幅を広げていってほしいと思っている。